

J-クレジット制度 プロジェクト計画書 （排出削減プロジェクト用）

プロジェクトの名称：

上富良野小学校への地中熱ヒートポンプ導入事業

プロジェクト 実施者名	上富良野町
----------------	-------

妥当性確認申請日 2015年 12月 1日

プロジェクト登録申請日 2016年 1月 5日

1 プロジェクト実施者の情報

1.1 プロジェクト実施者（複数のプロジェクト実施者がある場合は代表実施者）

実施者名	(フリガナ)
	カミフラチョウ 上富良野町
住所	北海道空知郡上富良野町大町2丁目2番11号

1.2 プロジェクト代表実施者以外のプロジェクト実施者

実施者名	(フリガナ)
住所	

1.3 J-クレジット保有者

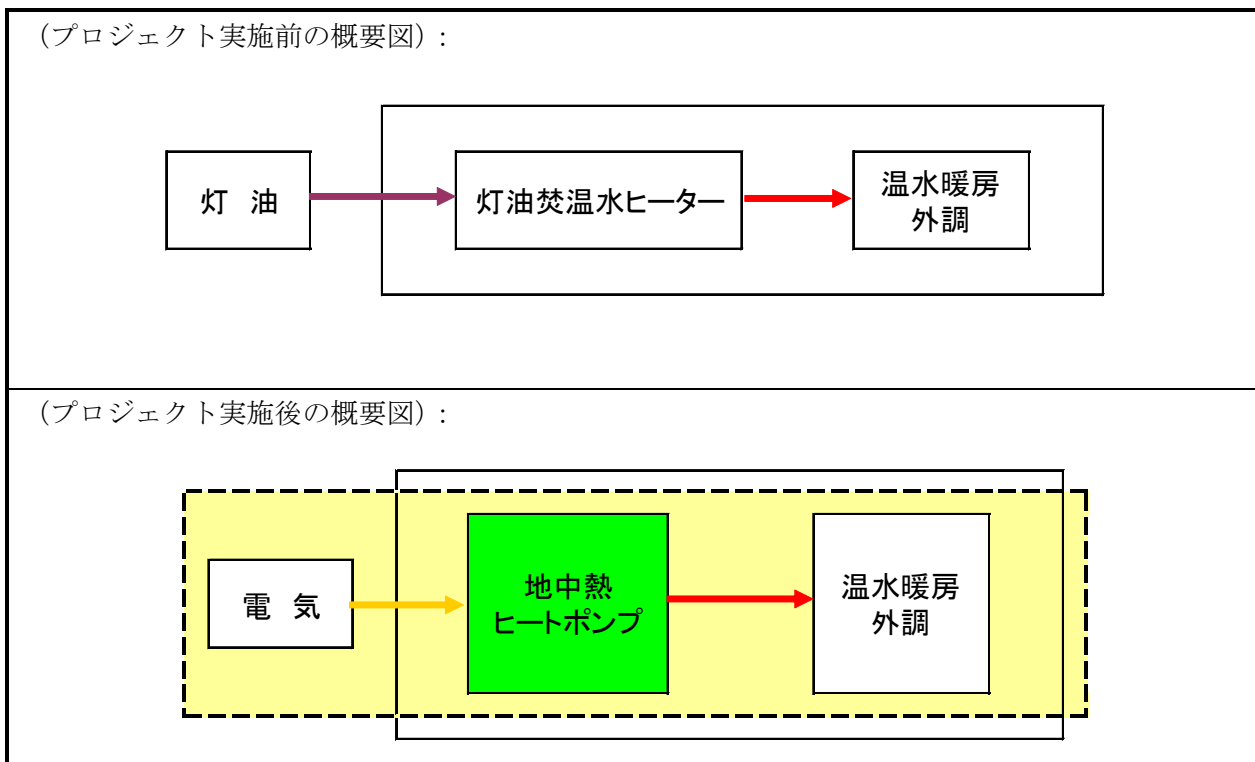
保有者名	(フリガナ) コウエキサ ^ダ イタンホウジン ホッカイト ^ダ ウカンキョウサ ^ダ イタン
	公益財団法人 北海道環境財団
住所	札幌市中央区北4条西4丁目1 伊藤・加藤ビル4F

2 プロジェクト概要

2.1 プロジェクトの目的及び概要

プロジェクト名	上富良野小学校への地中熱ヒートポンプ導入事業	
目的	本事業は、標準的な熱源機器ではなく、地中熱ヒートポンプを導入する事で、省エネルギー・省CO2化を図るものである。	
概要（削減方法）	施設の熱源機器として標準的に使用される灯油焚温水ヒーターではなく、地中熱利用設備を導入する事で、温室効果ガス排出削減を図る。	
プロジェクト実施場所	実施事業所名	上富良野小学校
	住所	北海道空知郡上富良野町宮町1丁目3-13

2.2 プロジェクト実施前後の状況



2.3 プロジェクト要件への適合

プロジェクトの実施日	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2013年4月以降に実施されたプロジェクトである □ 2012年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認及びオフセット・クレジット(J-VER)制度におけるプロジェクト登録のいずれも受けていない □ 2008年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認又はオフセット・クレジット(J-VER)制度におけるプロジェクト登録を受けている
追加性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 追加性を有している

3 方法論

3.1 適用方法論

適用する方法論	方法論番号	<u>EN-S-002 Ver.1.1</u>
	方法論名称	ヒートポンプの導入
更新／新設	<input type="checkbox"/> 更新プロジェクト	<input checked="" type="checkbox"/> 新設プロジェクト

3.2 方法論の適用条件への適合

条件 1	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	<p>説明</p> <p>本事業にて導入したヒートポンプの効率（COP）は306%であり、標準的な熱源設備である灯油焚温水ヒーターの効率 83.3%を上回る。</p> <p>標準的な熱源設備として灯油焚温水ヒーターを選定した理由は以下の通りである。</p> <p>①機器群の特定</p> <p>本事業は、温水暖房の熱源として地中熱ヒートポンプを導入しており、同様の事業において通常採用される機器群として灯油焚温水ヒーターを選定した。</p> <p>②設備の特定</p> <p>標準的な設備の規模は、プロジェクトで新設したボイラーと同等規模である。使用する化石燃料は、都市ガスの供給エリア外であり、導入場所（北海道苫前郡苫前町）の地域特性を考え、近隣にLPGボイラーを暖房設備として導入している施設が無いこと、および事業者様へのヒアリングにより当該施設の規模へLPGを供給できる業者が近隣にないことから、灯油とする。</p> <p>③設備効率の設定</p> <p>同等の出力を有するそれぞれ異なるメーカーの機種3種類の平均値を採用した。</p>
条件 2	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	<p>説明</p> <p>ヒートポンプで生産した温熱は全量当該施設で消費する。</p>
条件 3	<input type="checkbox"/> 適合している	説明
条件 4	<input type="checkbox"/> 適合している	説明

3.3 モニタリング・算定方法

ベースライン排出量				
主要／付随的	排出活動	温室効果ガスの種類	影響度	モニタリング・算定の実施
主要	温水ヒーターの使用	CO2	－	■排出量の算定を行う
主要			－	□排出量の算定を行う
付随的				□排出量の算定を行う □排出量の算定を省略する
付随的				□排出量の算定を行う □排出量の算定を省略する

プロジェクト実施後排出量				
主要／付随的	排出活動	温室効果ガスの種類	影響度	モニタリング・算定の実施
主要	ヒートポンプの使用	CO2	－	■排出量の算定を行う
主要			－	□排出量の算定を行う
付随的	冷媒の漏洩	R134a R410A	59.5%	■排出量の算定を行う □排出量の算定を省略する
付随的				□排出量の算定を行う □影響度により排出量を評価する

4 排出削減計画

認証予定期間	2016年1月5日 ～ 2021年3月31日（5年3ヶ月）					
排出削減計画	年度	ベースライン排出量		プロジェクト実施後 排出量		排出削減量
	2013年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2014年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2015年度	19.7	t-CO2	15.1	t-CO2	4 t-CO2
	2016年度	82.8	t-CO2	63.3	t-CO2	19 t-CO2
	2017年度	82.8	t-CO2	63.3	t-CO2	19 t-CO2
	2018年度	82.8	t-CO2	63.3	t-CO2	19 t-CO2
	2019年度	82.8	t-CO2	63.3	t-CO2	19 t-CO2
	2020年度	82.8	t-CO2	63.3	t-CO2	19 t-CO2
	合計	433.7	t-CO2	331.6	t-CO2	99 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input type="checkbox"/> 電力の CO2 排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由（以下に記載すること）					

5 データ管理

データの品質を確保するための仕組みとして、データ収集・集計等体制の整備と個別データの信頼性の向上について以下に記載する。詳細については、J-クレジット制度実施規程（プロジェクト実施者向け）「2.4」を参照のこと。

5.1 モニタリング体制

データ管理責任者	上富良野町 教育振興課 担当
モニタリング担当者	上富良野町 教育振興課 担当補佐

5.2 モニタリングデータの収集・記録・保管

モニタリングデータの収集・記録・保管の手続	<ul style="list-style-type: none">・積算熱量計の数値を月1回確認し、電子データで記録する。・排出係数はJ-クレジットデフォルト値を確認する。・プロジェクト実施前後の設備の仕様書を保管する。
データ保存期間	認証対象期間終了後__2__年間

6 特記事項

6.1 排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクの特定について

排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクがあるか

有 無

(「有」にチェックした場合に記入)

項目	概要
リスク要因	

6.2 ダブルカウントの防止措置について

類似制度へプロジェクトを登録しているか。

登録している

(類似制度名： _____)

類似制度での認証予定期間： _____)

登録していない

6.3 法令等の義務の有無について

プロジェクトの実施は、法令等の義務履行によるものではないか。

法令等の義務履行によるものではない。

法令等の義務履行によるものである。